

## 平成26年度 行政評価事業別シート

	<b>実計対象</b>	<input type="checkbox"/>	<b>評価対象</b>	<input checked="" type="checkbox"/>	<b>新規</b>	<input type="checkbox"/>	<b>完了事業</b>	<input type="checkbox"/>	<b>ゼロ予算事業</b>	<input type="checkbox"/>	<b>担当者</b>	西澤一哲
	<b>全体計画</b>						<b>経費区分</b>		-		<b>内線</b>	3626
<b>事務事業名</b>	4303 教室等開催事業											
<b>所 属</b>	130500 市民共創部・生涯学習スポーツ課											
<b>施 策</b>	04012000 生涯学習・文化芸術を核としたまちづくりの推進											
<b>予算科目</b>	<b>会計</b>	01 一般会計										
	<b>科目</b>	050104 労働費・労働諸費・勤労青少年ホーム創造の家費										
	<b>事業</b>	020000 教室等開催事業										
<b>事業目的</b>						<b>事業概要・効果</b>						
勤労青少年の個性と可能性を尊重し、充実した余暇活動を支援するため、多様化するニーズにあった各種教室を開催し、学習の機会や仲間づくり・交流の場を提供する。また、クラブ活動の育成及び指導に努める。						過去の応募状況やアンケート結果を検討する中で、勤労青少年から要望の多い教室を開催し、スポーツや趣味、教養等の学習活動を提供することにより、勤労青少年の福祉の増進が図られた。						

**PLAN-DO**

**年度実績及び予定**

<b>平成22年度 実績</b>	<b>平成23年度 実績</b>
教室開催及びサークル育成等	教室開催及びサークル育成等
<b>平成24年度 実績</b>	<b>平成25年度 実績</b>
教室開催及びサークル育成等	教室開催及びサークル育成等
<b>平成26年度 予定</b>	<b>平成27年度 予定</b>
教室開催及びサークル育成等	教室開催及びサークル育成等

指標名 勤労青少年ホーム創造の家教室受講者数およびサークル参加者数						
算式						単位
年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
目標値	目標	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000
	実績	3,905	3,849	3,735		
指標選定の理由						
最終年度目標の根拠						
指標名						
算式						単位
年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
目標値	目標					
	実績					
指標選定の理由						
最終年度目標の根拠						
指標名						
算式						単位
年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
目標値	目標					
	実績					
指標選定の理由						
最終年度目標の根拠						

事業費

(単位：千円)

		平成25年度 決 算	平成26年度 予 算
事業費		1,141	1,198
特定財源	国庫支出金	0	0
	都道府県支出金	0	0
	地方債	0	0
	その他	0	0
一般財源		1,141	1,198
人員数(人)	正規職員	0.0	0.0
	嘱託職員	0.0	0.0
	臨時職員	0.0	0.0
人員コスト	正規職員	0.0	0.0
	嘱託職員	0.0	0.0
	臨時職員	0.0	0.0
	計	0.0	0.0
市民一人当たりの経費		0.0	0.0
総額		1,141.0	1,198.0

(単位：千円)

平成25年度決算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	878	講師謝礼878千
11節 需用費	215	消耗品46千、食糧費1千、印刷製本費167千
13節 委託費	0	
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	0	
その他	48	

(単位：千円)

平成26年度当初予算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	900	講師謝礼900千
11節 需用費	250	消耗品59千、食糧費8千、印刷製本費183千
13節 委託費	0	
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	0	
その他	48	

CHECK

個別評価		
項目	評価観点	評価内容
必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか</li> <li>行政内部の管理運営上必要な事業であるか</li> <li>市が主体となり実施すべき事業か</li> <li>法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか</li> <li>目的は結果（施策の目指す理想）に結びついているか</li> </ul>	高い
評価コメント	毎年度、新規の教室の受講の申込み者も多く、勤労青少年の有効な余暇を利用した学習、交流の場となっている。	
有効性	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業の成果は上がっているか</li> <li>目標に対する達成度は十分か</li> <li>市民生活上の課題解決に貢献しているか</li> <li>行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか</li> <li>事業の目的が達成できるような事業内容になっているか</li> </ul>	有効
評価コメント	募集する教室は、すべての教室終了後に実施するアンケートの結果に基づき、意見、要望を踏まえ開催している。	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか</li> <li>効率性向上に努めているか</li> <li>使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか</li> </ul>	やや向上
評価コメント	教室の過去の募集、参加状況、アンケート結果等を検討する中で、募集を実施する教室を決めている。	

振り返り（決算年度の取組み課題）

教室受講者の事後活動として、受講者同士の交流、仲間づくりを図っていくことが課題である。

